

## 若手職員の発想を生かして、子育て世代へみどり戦略をPR

岐阜県農業フェスティバルに県拠点若手職員が主体となり、子育て世代をターゲットにして出展

### ○ 施策分類

- ・みどりの食料システム戦略(農産物の環境負荷低減の取組の「見える化」)

### ○ きっかけ・背景、課題の把握

- ・県拠点若手職員同士でみどり戦略について話し合いを行った結果、「みえるらべる」の認知度が低いことを課題として認識。その解決策として、生産者、消費者の両者が来場するイベントを活用して広く周知することを若手職員が企画。

### ○ 取組の内容

- ・若手職員が主体となって打合せを重ね、令和6年10月に開催された「岐阜県農業フェスティバル」(来場者21万7千人)において、親子連れにも興味を持ってもらえるように、アニメキャラクター(サクナヒメ)や「みどりすごろく」(東北農政局作成)等を取り入れた、親しみやすいブースを企画。
- ・フェスティバル当日も、若手職員自身が多数の来場者に「見える化」を含むみどり戦略の説明を行い、関心度を測るアンケート等を実施した。

### ○ 効果・成果、今後の方向性

- ・若手職員の発想を生かしたことで、親子連れを中心とした幅広い年代の来場者に対し、「みえるらべる」の趣旨、その生産者及び購入可能場所を紹介できた。来場者アンケートでは「みえるらべる」がついた農産物の購買意欲の高さを示す結果が得られ、こうした取組により消費者の行動変容が促される可能性が確認できた。
- ・課題の洗い出しから解決策の検討・実行まで、若手職員が主体となって取り組むことで、他業務にも生かせる企画・説明力を向上できた。
- ・今後も若手職員の発想を生かして、消費者や生産者へ環境負荷低減の取組を周知していく。



来場者へ説明をしている県拠点若手職員



岐阜県拠点の出展ブース

### 体制図

